

# 福島県事故多発地点緊急対策事業について

## 1 目的

県民が安全で安心して暮らせる交通環境の実現を目指して、交通事故多発地点等について道路環境を中心とした詳細な事故分析を行い、交通事故の減少に向けた効果的で適切な施策の展開を図ることを目的としています。

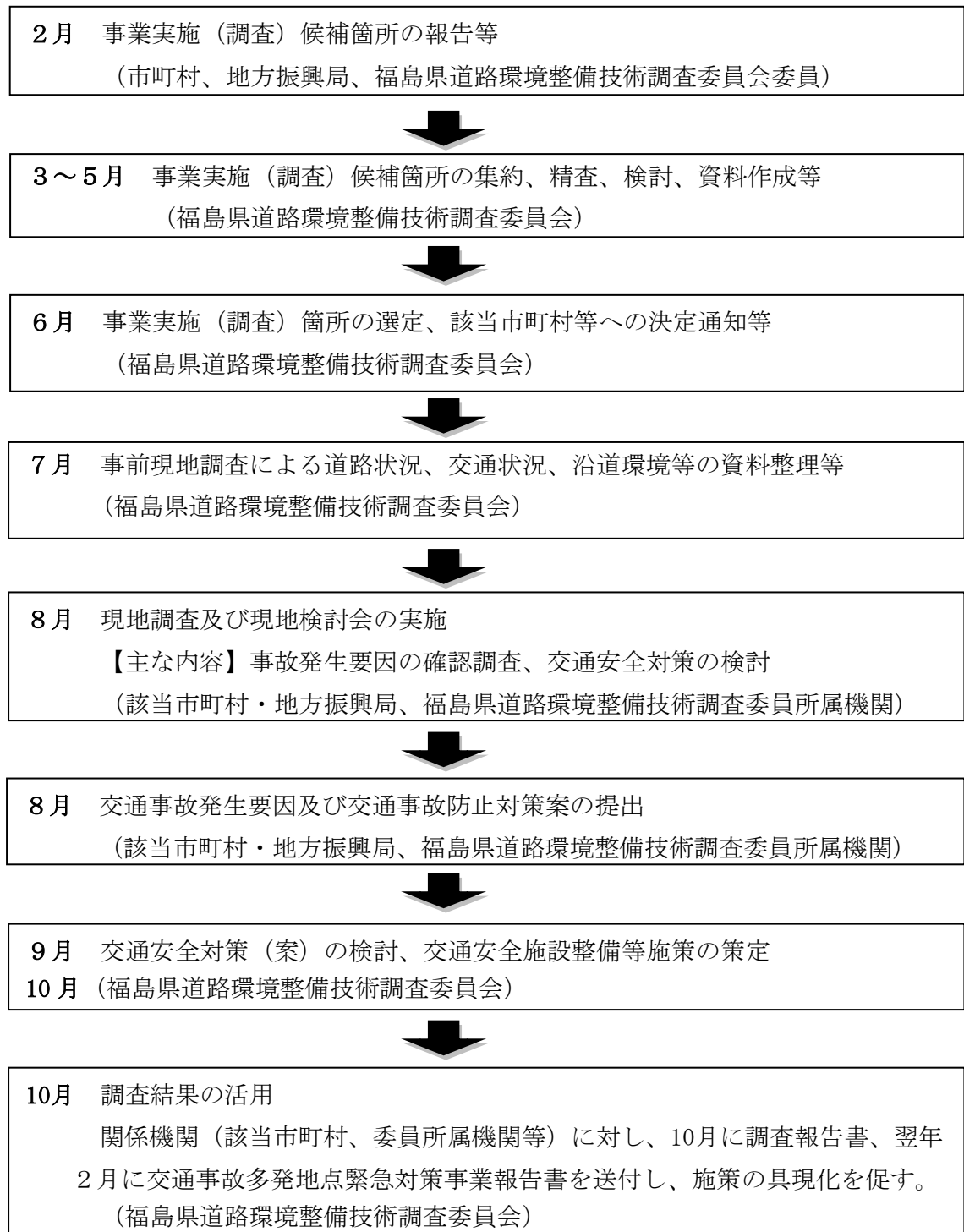
## 2 事業内容

福島県及び福島県道路環境整備技術調査委員会（※注参照）が、市町村等と協力し、次のとおり実施している事業です。

※注 「福島県道路環境整備技術調査委員会」

県内の交通危険箇所、交通渋滞箇所、都市交通等の交通問題を取り上げて調査研究し、その改善に役立てることを目的に設置されたものであり、地元大学等の学識経験者、国土交通省東北地方整備局各国道事務所、福島県土木部、福島県警察本部、県生活環境部、関係市町村等により構成されています。

## 3 事業の主な工程



## 2年後 事後調査

関係機関（該当市町村、委員所属機関等）に対する対策推進状況の照会及び現地確認調査を行い、2年後に発行する交通事故多発地点緊急対策事業報告書により、調査結果を全市町村・振興局、委員所属機関にお知らせする。（福島県道路環境整備技術調査委員会）

## 4 調査箇所数と事業実施前後における交通事故発生件数の対比

事業実施年（調査箇所数）	実施前2年間	実施後2年間	増減率
平成30年（6箇所）	96件	73件	△24.0%
平成29年（6箇所）	83件	23件	△72.3%
平成28年（6箇所）	29件	7件	△75.9%
平成27年（6箇所）	41件	16件	△61.0%
平成26年（7箇所）	74件	40件	△45.9%
平成25年（8箇所）	68件	30件	△55.9%
平成24年（6箇所）	29件	13件	△55.2%
平成23年（5箇所）	44件	25件	△43.2%
平成22年（9箇所）	52件	23件	△55.8%
平成21年（8箇所）	80件	23件	△71.3%

### 参考 福島県事故多発地点緊急対策事業の経緯

福島県事故多発地点緊急対策事業は、昭和45年に当時の県立福島医科大学生理学第二講座の御協力により、交通安全道路診断として開始したものです。

当時は、高度経済成長下で交通事故が急激に増加し、“交通戦争”ともいわれておりました。

そこで、交通環境が運転者に与える影響等の人間工学的視点にも配慮して、問題のある地点に適切な交通安全施設等を整備し、さらに、それらの施設等が十分に効果を発揮できるような交通規制を実施しようと、昭和47年に福島県道路環境整備技術調査委員会を設置し、現在の活動に至りました。

福島県の交通事故死者が最も多かった昭和44年当時は死者が398人に上っていましたが、49年後の平成30年の死者数は75人となり、8割以上減少しました。

このことは、もちろん数多くの交通関係機関・団体の皆様方の長年の活動等により、県民の交通安全意識の向上が図られた成果でございますが、本事業の活動も着実に効果を現してきたものと考えております。

交通事故防止に携わる多くの方々に、広く本事業の事例を公開することにより、参考として活用していただければ幸いであるとの考えから、これまでに取り組んできた数多くの事例の中から、取扱頻度が高い類似する交通環境問題のある事例をホームページに掲載しました。

本事業の立ち上げ段階から40年以上もの長きに亘り、特段の御指導・御協力をいただきました福島県立医科大学片平清昭教授をはじめ、福島大学永幡幸司教授、国土交通省東北地方整備局各国道事務所、福島県土木部、福島県警察本部、県内市町村等の皆様方に対し、深く感謝を申し上げます。

## 平成30年度事業箇所と交通事故発生状況比較

番号	路線名	調査場所	通称名	交通事故発生状況(高齢者は内数)									
				調査年月日	H28		H29		R1		R2		
					全体	高齢者	全体	高齢者	全体	高齢者	全体	高齢者	
1	県道福島吾妻裏磐梯線 県道福島微温湯線 市道太平寺・山口線	福島市太田町14番8号先	あづま陸橋西交差点	件数	13	5	9	0	1	1	5	1	
			死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			平成30年8月2日	傷者	7	0	1	0	0	0	1	0	
2	市道荒井・長者線 市道山崎・久留米線	郡山市字名倉83番の1先	名倉交差点	件数	5	1	5	1	4	0	6	0	
			死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			平成30年8月2日	傷者	0	0	4	0	1	0	0	0	
3	国道121号 会津縦貫北道路 市道下勝・北町線	喜多方市関柴町西勝字西原297番の1先	喜多方インター交差点	件数	8	2	10	0	5	3	4	0	
			死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			平成30年8月3日	傷者	2	0	1	0	1	0	0	0	
4	国道121号	下郷町大字中妻字大百刈93番地先	下郷消防署前	件数	4	1	6	0	6	0	4	2	
			死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			平成30年8月2日	傷者	1	0	0	0	0	0	1	0	
5	市道十五町目・若葉台線 市道堀ノ内・鶴ヶ町線	いわき市平上荒川字堀ノ内8番の1先	上荒川交差点	件数	13	5	6	0	10	1	5	0	
			死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			平成30年8月3日	傷者	4	1	2	1	4	0	0	0	
6	市道内郷・平線 市道新川町・谷川瀬線	いわき市平谷川瀬三丁目1番の1先	新田橋南交差点	件数	8	1	9	1	15	3	8	0	
			死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			平成30年8月3日	傷者	2	2	7	2	2	0	1	0	
合 計				件数	51	15	45	2	41	8	32	3	
				死者	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				傷者	16	3	15	3	8	0	3	0	
事業実施前後における交通事故発生状況対比				実施前				実施後					
				全体		高齢者		全体		高齢者			
				件数	96	17	73	11					
				死者	0	0	0	0					
				傷者	31	6	11	0					

※全体件数 = -24.0%

※全体傷者数 = -64.5%

※高齢者件数 = -35.3%



※高齢者傷者数 = -100.0%

### 30年度事業の事例

- 1 調査場所：福島市太田町14番8号（あづま陸橋西交差点）
- 2 交通事故の発生状況

交通事故の発生状況等	整理番号	昼夜別	発生日時				曜日	天候	被害		当事者		事故類型	違反
			年	月	日	時			死者	傷者	第一当事者	第二当事者		
①	昼	28	1	5	15	火	曇			普通乗用	軽四乗用	追突	前方不注視	
②	夜	28	1	22	20	金	晴	1		普通乗用	軽四乗用	出会い頭	信号無視	
③	昼	28	3	30	20	水	晴			不明	普通貨物	車線変更	不明	
④	昼	28	4	1	9	金	晴	1		普通乗用	軽四乗用	追突	前方不注視	
⑤	昼	28	5	3	7	火	晴			普通乗用	普通乗用	追突	動静不注視	
⑥	昼	28	5	5	15	木	晴			軽四乗用	普通乗用	左折時	左折方法	
⑦	昼	28	6	13	10	月	雨			普通乗用	縁石	単独	安全不確認	
⑧	昼	28	7	16	16	土	晴			軽四乗用	普通乗用	車線変更	安全不確認	
⑨	夜	28	8	17	19	水	晴			普通乗用	軽四乗用	出会い頭	信号無視	
⑩	昼	28	9	10	16	土	晴			普通乗用	軽四乗用	追突	ブレーキ操作不適	
⑪	昼	28	10	3	14	月	晴	5		軽四乗用	普通乗用	追突	ブレーキ操作不適	
⑫	夜	28	11	20	19	日	晴			軽四乗用	普通乗用	左折時	左折方法	
⑬	昼	28	12	4	11	日	晴			普通乗用	普通乗用	出会い頭	信号無視	
⑭	夜	29	2	23	4	木	曇			普通乗用	中央分離帯	単独	前方不注視	
⑮	昼	29	3	15	11	水	雨			普通乗用	普通乗用	追突	動静不注視	
⑯	夜	29	3	15	19	水	曇	1		普通乗用	普通乗用	追突	動静不注視	
⑰	夜	29	4	6	不明	木	晴			不明	中央分離帯	単独	不明	
⑱	昼	29	8	27	11	日	晴			軽四乗用	準中貨物	車線変更	安全不確認	
⑲	昼	29	10	9	10	月	晴			普通乗用	普通乗用	出会い頭	安全不確認	
⑳	夜	29	10	22	21	日	雨			軽四乗用	中央分離帯	単独	前方不注視	
㉑	夜	29	11	15	20	水	曇			普通乗用	軽四乗用	左折時	安全不確認	
㉒	夜	29	12	13	17	水	曇			普通乗用	不明	転回時	安全不確認	
過去2年間の合計交通事故件数											22件	うち人身事故4件		

あづま陸橋西交差点の状況

	写真 ①	写真 ②
平成30年度の状況		
令和2年度の状況	